

令和5年5月15日  
愛媛大学

## 「EU アドバンスド・リサーチ・フェローシップ事業 フェローシップ学生と学長等の懇談会」を開催します

大学院の博士後期課程に進学する学生は、高度な研究により「博士号」の取得を目指していますが、近年、全国の進学者数が減少傾向にあるため、我が国の科学技術の発展にとって大きな問題となっています。

このため、愛媛大学では、大学院理工学研究科博士後期課程の選抜学生（以下「フェローシップ学生」）に対し、研究に専念できる経済的な支援と、研究力向上やキャリアパスに資する教育支援など、総合的な学生支援プログラムを提供する「EU アドバンスド・リサーチ・フェローシップ事業」を、令和3年度から実施しています。

この事業の一環として、今年度に採用したフェローシップ学生と、学長・運営会議委員とが初めて顔を合わせる懇談会を開催します。

つきましては、是非取材くださいますようお願いいたします。

### 記

日時：令和5年5月19日（金） 15時00分～15時50分

場所：愛媛大学本部 5階 第1会議室（松山市道後樋又10番13号）

目的：フェローシップ学生と、学長等が初めて顔を合わせる場であり、親しく懇談することにより、学生の今後に向けた意欲向上を図ります。

参加者：令和5年度フェローシップ学生5名、仁科学長、運営会議委員、指導教員等

※詳細は別紙をご参照ください。

本件に関する問い合わせ先  
大学院理工学研究科 特定教授  
フェローシップコーディネーター  
瀬野 英二  
TEL：089-927-9901  
Mail：fsc@stu.ehime-u.ac.jp

※送付資料3枚（本紙を含む）

## EU アドバンスド・リサーチ・フェローシップ事業とは

【背景】博士後期課程の学生は、我が国の次代の科学技術を担う貴重な存在です。しかし、近年、経済的な不安と研究者としてのキャリアパスが不透明であることから、我が国では、博士後期課程に進学する学生が減少傾向にあります。このため、文部科学省では、「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」を策定し、博士後期課程の優れた学生を総合的に支援する大学に対して助成を行っており、愛媛大学は、この事業に採択され、令和3年度の試行を経て、令和4年度から本格的に実施しています。

【概要】愛媛大学では、大学院理工学研究科博士後期課程の学生から選抜したフェローシップ学生に、主に次の3つの支援を行って、社会に輩出します。

①研究専念支援：

フェローシップ学生に対し、3年間、月15万円の研究専念支援金と年30万円の研究費を給付することで、研究に専念できる環境を提供します。

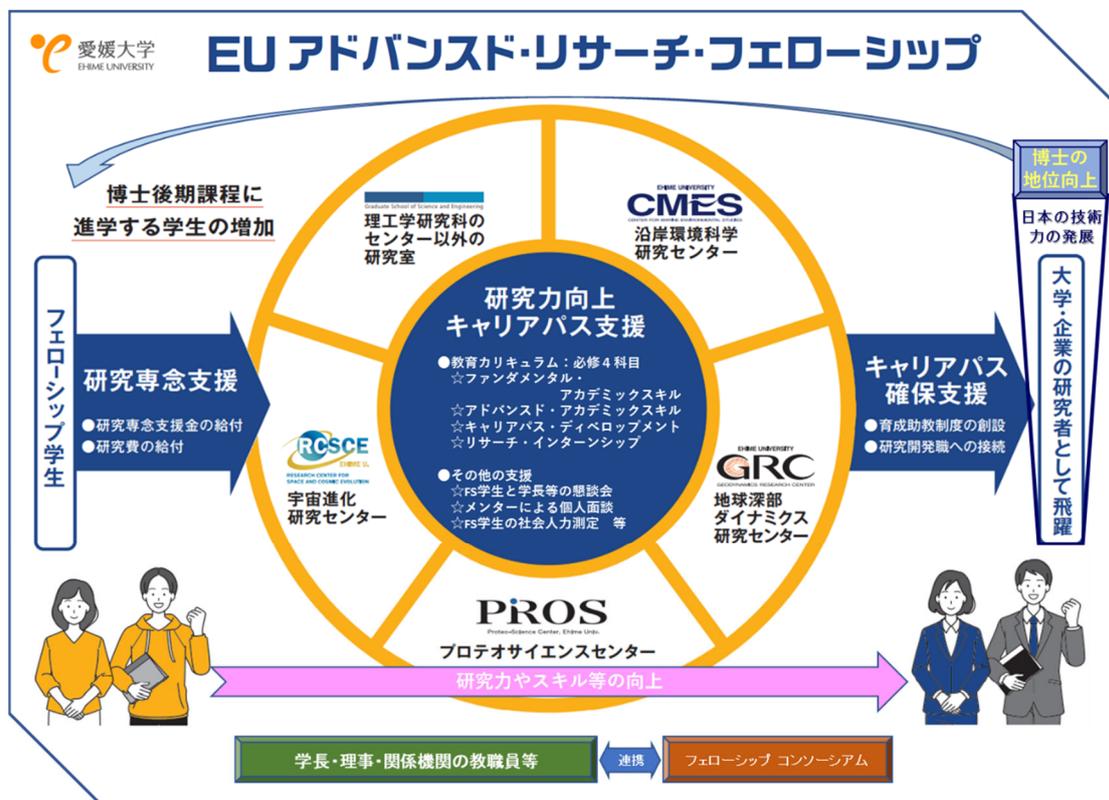
②研究力向上・キャリアパス支援：

フェローシップ学生に対し、英語力、外部資金獲得力、プレゼン力、コミュニケーション力、キャリアパス開拓力等をつけるための講義や演習、外部機関でのインターンシップ等、4つの教育プログラムを実施します。

③キャリアパス確保支援：

フェローシップ学生の、博士後期課程修了後における大学や民間企業等の研究職ポストが確保できるよう支援します。

そして、本学の博士人材が社会で活躍し、科学技術の発展が図られるとともに、博士人材の社会的地位が向上することで、博士後期課程に進学する学生が増加するという好循環が生まれることを期待しています。



## 当事業における「フェローシップ学生と学長等の懇談会」の位置づけ

■目的 今年度の支援がスタートするのに合わせて、博士後期課程1年次のフェローシップ学生と、学長・運営会議委員とが初めて顔を合わせる場を設定し、親しく懇談することにより、学生の今後に向けた意欲向上を図るものです。

■日時 令和5年5月19日（金） 15時00分～15時50分

■場所 愛媛大学本部 5階 第1会議室（松山市道後樋又10番13号）

■参加者 フェローシップ学生：5名（1年次）

事業関係教員：仁科 弘重 学長

《運営会議委員》

満田 憲昭 理事・副学長

高橋 亮治 大学院理工学研究科長

高橋 寛 大学院理工学副研究科長

郭 新宇 沿岸環境科学研究センター長

澤崎 達也 プロテオサイエンスセンター長

粟木 久光 宇宙進化研究センター長

朝日 剛 大学院理工学研究科教授

学生の指導教員、コーディネーター、関係職員

- 次第
- ◎大学教員の紹介
  - ◎フェローシップ学生の自己紹介 及び 今後の抱負  
指導教員からのフォロー
  - ◎学長よりメッセージ
  - ◎懇談
  - ◎参加者の記念撮影

【参考】★昨年度（2期生）の懇談会の様子



学生にメッセージを伝える仁科学長



学生と参加教員による記念撮影